

## 平成29年度 南丹市立美山中学校 学校経営 (スクールマネジメントプラン)

学校教育目標	学校の現状分析	学校経営方針(中期経営目標)
<p>「ふるさとを愛し 夢や希望に向かって自らを高める 美山っ子の育成」 一人権の尊重を基盤として、心豊かで、たくましく生きる生徒の育成を図る</p> <p>《目指す生徒像》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的に学ぶ生徒の育成(知) 【よく考える】</li> <li>○思いやりのある生徒の育成(徳) 【よく思う】</li> <li>○心身ともに健康で勤労と責任を重んじる生徒の育成(体) 【よく活動する】</li> </ul>	<p>(1) 生徒は素直で優しく、落ち着いた学校生活を送り、生活・学習全般に真面目によく努力する。生徒は、どこでも通用する学力を身に付けることと、よい人間関係づくりができるように、コミュニケーション力を高めていく必要がある。</p> <p>(2) 昨年度の小論文の取組成果を踏まえ、生徒が発表会等において、学習の成果が自分の言葉で伝えられる表現力を身に付ける必要がある。</p> <p>(3) 学校の様々な取組に対して、保護者・地域の方は大変好意的であり、よく協力していただいている。</p>	<p>京都府教育委員会「京都府教育振興プラン」「学校教育の重点」「社会教育の推進のために」及び南丹市教育委員委「学校教育指導の指針」に基づき、公教育として地域の期待に応えるため、「特色ある・地域とともにある学校づくり」に努める。</p> <p>(1) 教職員一人一人が学校運営に参画しているという意識を高めて、組織(チーム)として、「基礎・基本のより一層の定着」と「思考力・判断力・表現力の育成」を目指した授業改善を通して、地域社会の信頼に応える教育を推進する。</p> <p>(2) 生徒一人一人のよさを伸ばすとともに、よい人間関係づくりのできる生徒集団の育成に努める。</p> <p>(3) 教職員研修を充実させ、教職員一人一人が、豊かな人間性、広い社会性及び高い専門性を基盤とした実践的指導力の向上を図る教師集団づくりを目指す。</p> <p>(4) 家庭、地域との連携のもと、「地域とともにある学校」づくりを目指す。</p>

学校経営の重点(短期経営計画)	成果	評価	課題	改善策等
<p>◆<b>確かな学力</b></p> <p>○学ぶ意欲の喚起や主体的な活動を含んだ授業展開の工夫・改善を通して、学びのプロセスを大切にする授業の充実を図る。 ※定期テストや全国・府診断テスト等で、基礎・基本領域で70%以上の通過率 ※授業がわかりやすいと肯定的回答する生徒80%以上</p> <p>○小論文の取組実績を踏まえ、保護者・地域の人を対象にした総合的な学習の時間の発表会を実施し、美山の人・もの・こと等のよさを再認識してもらう。 ※保護者・地域の人から、美山のよさの再認識や地域と連携した取組をしていると肯定的な回答80%以上 ※総合的な学習の時間の学習を通して、その学びを作文・レポートでまとめたり、発表することができた肯定的に回答する生徒90%以上</p>	<p>○授業がわかりやすいと肯定的な評価は90%以上であった。学級経営や生徒の学習規律の定着・指導と各教科での授業展開や教材の工夫を進めることができた。</p> <p>○全国(3年)・府(2年)診断テストで、3年数学以外は、70%を上回る通過率であった。</p> <p>○地域との連携について85%程度で肯定的な回答を得ることができた。総合的な学習の発表会や学校だよりやHPでの情報発信を通して、学校の取組について理解と協力を得ることができた。</p>	A	<p>○全教科の授業で、言語活動を充実させ、筋道を立てて考える力や知識を活用する力の育成を目指した授業展開の工夫</p> <p>○タブレット等ICTのより効果的な活用</p> <p>○家庭学習2時間の習慣化と自主学習の質の向上</p> <p>○町内各振興会等の地域の組織との取組日程・内容等の情報共有</p>	<p>○授業の表現する場面では、思考・判断したことを教科で学んだことや自分のことばでわかりやすく表現させたり、自分の意見を根拠や理由を添えて、話したり書いたりさせる展開を積極的に取り入れ、生徒の学習欲の向上や定着を図る。</p> <p>○課題の出し方等を工夫して家庭でも主体的な学習ができるよう指導する。また、漢字検定や英語検定などの受検を積極的に呼びかける。</p> <p>○南丹市でのICTを活用した授業の資料集等を参考に、積極的に活用する授業を年間計画に位置づける。</p>
<p>◆<b>豊かな心・健やかな心身</b></p> <p>○思いやりや命の大切さなど道徳で意見や思いを交流できる展開のある授業を通して、よい人間関係のある生徒集団を育む。 ※好ましい人間関係が築けていると肯定的に回答する生徒70%以上</p>	<p>○肯定的な回答が中間と同様に90%を超えており、1年間多くの生徒が良好な人間関係を築き学校生活を送ることができている。年間2回のQUTESTの学校生活プロフィールでも、全国平均と同程度の結果を示している。</p>	A	<p>○教師側の観察や情報収集と生徒・保護者からの相談より、いじめの早期発見・早期対応、未然防止</p> <p>○人権意識や人権感覚を持たせる指導のさらなる充実</p> <p>○生徒に目的意識を持たせた行事等の主体的な企画・運営できる取組指導の工夫改善</p>	<p>○各学年での対応・指導は、生徒・集団・保護者の3つの視点での指導を意識し、「報告・連絡・相談」をもとにした組織的な指導体制、早期対応、家庭との連携を大切にした指導を行う。</p> <p>○各学年と分掌が連携をとって、学級活動や生徒会活動が生徒自らが主体的に取り組めるよう見直しをもたせ考えさせる。</p>
<p>◆<b>地域連携・小中連携</b></p> <p>○学校取組・生徒の様子等の情報発信を学校だよりの地域配布(各学期2回)、ホームページ(随時更新)を活用し、学校への理解を深め、協力体制をより一層推進する。また、小学校の熟議に教職員が1回は参加し、小中・地域の協働体制の足がかりにする。 ※保護者・地域の人から、学校・生徒の様子等を十分伝えている、地域と連携した取組をしていると肯定的な回答80%以上</p>	<p>○美山小学校での熟議に全教員が参加し、地域の様々な思いを知るとともに、新学習指導要領の移行期に向けて、小中・地域連携、学校組織のあり方を考える機会にすることができた。</p> <p>○学校からの情報発信、地域連携に関わる肯定的な回答は80%以上であった。</p>	B	<p>○美山中ブロックでの連携・交流の充実と実践の検証</p>	<p>○美山中ブロック研究会を中心に、小中の効果的な連携と滑らかな接続を大切にする実践・検証をする。小学校での熟議を参考に、中学校での熟議を開催し、地域と育てたい生徒像を共有し、今後の活動に活かす。</p>

